

# 幼児の時間観念

東京高等師範學校教授

依田新

「お父さん、巨人ゴリアートはいつも冷たい水で體をふいてゐるの?」

「さうです。だからゴリアートは大變強かつたのです」

「ゴリアートは何時ゐるの?」

「二千年以上昔に」

「その時お父さんも矢つ張りゐるの?」

「いえ」

「そんならさうしてお父さんはゴリアートの事を何でも知つてゐるの?」

「それは本に書いてあるのさ」

「……………」

これは心理學者カッツミ五歳二ヶ月になる彼の子供との、朝の寢床の中での、會話の一節である。二千年も前からお父さんは生きてゐたのか、さういふ質問が出てくる所に、この子供の時間観念が未だ十分に秩序づけられてゐな

いことが示されてゐる。カッツミは言つてゐる。そしてこの様な時間観念の曖昧さは決してこの一人の子供だけの現象でなくて、この年齢位では一般にさうであると言はれてゐる。例へばビューラーなども、分、時間、週、月等の言葉は大部分の六歳兒には未だはつきりとは理解されてゐない。こ述べてゐる。

シュテルンの兒童語彙の調査による。時間の副詞は場所の副詞よりずつとおくれて現れる。さういふことである。即ち、場所の副詞は既に一歳六ヶ月乃至一歳九ヶ月頃に可成り多く現れてくるが、時間に關する副詞は二歳以前に於て現れることは殆ど稀で、三歳になつてから始めて用ゐられる様になる。しかもカッツミの子供との會話に見られる様に、たゞへ時間に關係する言葉が使はれてゐても、それから直ちに我々と同じ様な時間の意識があるとは言へない。實際、幼兒に於ては、昨日の事でも一週間前のことでも屢々「昨日」さういふ言葉で表現され、未來はすべて

「明日」といふ言葉で表現されることが多い。そこで我々はもう少し立ち入つて彼等の持つ時間の觀念について考察して見よう。

## 二

幼児の持つてゐる時間觀念は、我々文化的成人のその様に、決して抽象的、形式的な範疇ではなく、具體的に感情や行動と密接に結びついたものである。即ち、未來に關する言葉はその時の「願望」の表現であり、過去に關する言葉は現在に於て完結した行動の「満足」の表現である。

従つて、時間と空間とは互ひに未分化のまゝ具體的な聯關をなしてゐる。夫故に、幼児に於ては時間表象は同時に空間的な性質を持つてゐる。彼等が年や月を空間的な廣がりを持つたものと考へてゐるのもその爲である。

例へば、スクーピンの子供は六歳八ヶ月の時、空を仰ぎその方に手をさしのべながら次の様なことを言つてゐる。

『上の方に晝間があり、その上に次の夜があり、それからずつ上の方にクリスマスがある。』

この様な言ひ方は決して單なる比喩ではなくて、時間空間の未分化の形のそのまゝの表現なのである。だからこそ「お正月がもう山の向ふまで來てゐる」といふ様な表現が、幼児に於ては極めて具體的に體驗されるのである。

又、多くの子供等は曆が時間を作るのだと信じてゐる。

即ち、曆をはぎこむことが現實の時間の進行を可能ならしめるものと信じてゐる。だから彼等に於ては、日曜だから曆が赤いのではなくて、「曆が赤い時」が日曜であるのだ。従つて、幼児に於ては時間は我々成人に於ける様に、連續的な形式ではなくて、不連續的な個物的なものであり、實體的なものである。晝が段々夜になるのではなくて、晝と夜とは全くはつきり區別されるものである。而して、この様な時間分節は感情的色彩を多分に持つところの個々の事象を中心にしてなされてゐる。例へば、朝飯、晝寢、晩飯、誕生日、クリスマス等といふ様な個々の事象によつて一日なり一年なりの時間的系列が不連續的に分節されてゐるのである。

## 三

この様な幼児の時間意識の構造を理解する爲には、原始民族の持つてゐる時間觀念を調べてみることは非常に參考になる。エルナーの研究によるが、兩者の間には非常に類似した現象が多い。

例へば、子供の場合と同じ様に、原始民族に於ても、時間を現す言葉はある包括的な事象過程の内に於ける顯著な個々の事象を表現する言葉である。エルナーによつて一、二具體的な例をあげてみるが、

ウガンダ人は牧畜を生業とする原始民族であるが、一日

を非常に細かく分節してゐるけれども、それは決して抽象的に把握された時間系列ではなくて、一日の勞働過程の中に時間規定が内在的に表現されてゐるのである。即ち、六時は搾乳時、十五時は家畜に水を與へる時、十七時は家畜が家に歸る時、等さいふ風に把握されてゐる。

又、オーストラリアのオランダ人は一日の時間分節として二十五の言葉を持つてゐるが、夫々の意味は例へば次の様なものである。

lantara 東の空に太陽の最初の光芒が見えた時

artjelmiwiva 太陽の光が段々透明なくなつた時

inguntingunta 小鳥が囀り始める時 等。

同じ様な例をもう一つあげるに、同じくオーストラリアのビガンブル人は一年の季節をその時に花が咲く樹木によつて命名してゐる。例へば、

yerrahinda 花咲く時(九月)

nigahinda 林檎の花咲く時(クリスマス) 等。

かくの如く、子供の場合にもさうであつた様に、時間表象を抽象的、形式的に構成しないで、具體的行動的に構成してゐる。

又、子供の場合に時間が不連続的な系列であつた様に、原始民族に於ても時間は空間的に把握され、個々の具體的な事物として直観されてゐる。従つて、時間の流れはバラ

バラバラな斷續となり、個々の時間は互ひに中間的空間によつて分離されてゐるのである。

例へば、インディアンに於ては一年は十ヶ月とその他に二ヶ月を持つて居り、この二ヶ月の間は年が死んでゐるを考へてゐる。この時に彼等はアルガロボさいふ一種の豆を收獲し、大きな酒宴を催すさいふことである。

以上で大體分る様に、是等の原始民族の時間意識を見るに、形式的でなく感情的、行動的であり、抽象的でなく具體的、直観的であり、連続的なシエマでなくて、不連続的な實體的系列であるさいふ點に於て幼児の時間意識と多くの共通點を持つてゐる。恐らく原始的な時間意識の構造はこの様なものではなからうか推定される。

(附記)本論文は主としてエルナーの「發達心理學序説」とカッツの「兒童との會話」とに據つたものである。(十四、三、二十六)